

学校の教育活動から

○楽しかった「あそまつり」

6日(土)に「あそまつり」を行いました。子ども達にとっては、年間の様々な行事の中でも、とても楽しみにしているものの一つです。「美味しい春巻き屋さん」「自分だけのプラパン」「放て!空気砲!」「ディスクこまづくり」「ぷくぷくアート」「ピーズづくり」「カンバッチ・グー」のコーナーを楽しく回っていました。全校のみんなの笑顔が溢れた素敵な半日になりました!



○学年入り乱れてのサッカー!

今月11日(木)から「サッカーワールドカップ2026」が開催されます。これから学校でも一段とサッカー熱が加速することでしょう。ただ、本校では、昨年度から、始業前に6年生(当時5年生)が男女一緒に元気よくサッカーをしている姿が見られていました。そして最近では、これまでも増して、大勢が一緒になってサッカーを楽しんでいるのです。さらによく見れば、その中には低・中学年の子もいるようです。メンバーを確認してみると、**1年生から6年生まで、全学年の子が入ってボールを追いかけている**のです。とても仲睦まじい様子に朝から元気をもらっています。先日は、私も一緒に参加させてもらったのですが、さすがに歳のせいもあり、**すぐに疲れてしまいました。しかし、とても楽しいひと時でした!**



感じたことから

○「疲れたけれど、楽しかった!」(運動のことばかりではありません!)

様々な学年の授業の様子を見ていると、**先生がお話している最中でも、自分が話したいと思ったら、間髪入れず言葉を発している様子**が見られます。中でも、授業の内容とは直接関係のないことで盛り上がってしまうことがあります。例えば、算数の時間に...

- 先生 : 「ここにケーキが3個あります。そして、...」
 Aさん : (先生の説明が途中であるにもかかわらず)「ぼく、昨日ケーキを食べたよ!」
 Bさん : 「ぼくは、チョコレートケーキが好きだな!」
 Cさん : 「先生、このケーキって、チョコレートケーキですか?」

といった感じですが(実際にこの会話があったわけではありません)。算数の学習内容とは関係のない中で盛り上がり、**友達の授業の集中を妨げてしまうのです**。もちろん、先生がお話する言葉や内容も聞き取り難しくなってしまいます。同様の傾向は、どの学年のどの教科にでもありがちです。子どもらしい反応ではありますが、授業中では、学習に集中する事ができず、自分も友だちも学びの効率が悪くなってしまいます。

先日、**3年生の教室**で、このことについて、理科専科の日永田先生と担任である税田教頭先生が、子ども達にしっかり話をしてくださいました。その翌日、私が図工の時間の指導に入らせてもらったのですが、前日の先生方の指導が生きていたのでしょう、**どの子も黙って、絵に集中**していたのです。絵を描いている最中、誰一人として、必要のない言葉を発することはありません。ですから、予定していた作業がどんどん進んだのです。



昨年度の4月に、**現5年生(当時4年生)の絵の指導**にも入らせてもらったのですが、その時も、**全員が静かに黙って集中して絵を描いていました**。2時間続けての図工だったので、さぞかし疲れたらと思うと、授業後、前に座っていた**〇〇〇〇さん**に「どうだった?」と聞いたところ、「**集中して描いていたので、とても疲れました。でも...とても楽しかったです!**」と返って来たのです。この言葉は、教える側の教師として、とても嬉しいものでした。それは、**集中することはきつけれど、そこで生み出した表現や身につけた理解は楽しさにつながるもの**であることを示すものだったからです。

子ども達の中には、みんなでワイワイガヤガヤ、笑い合うことが楽しさと勘違いをしている子もいるようです。しかし、それは学びの上では望ましくないことが多く、自分の力を伸ばせなければならず、友達が力を伸ばしていくことを妨げてしまうものです。**学びの上での集中は、言うまでもなく自分を高めるとともに、学級の“集団としての学ぶ姿勢”につながります。そして、それは本当の意味での“楽しさ”につながるものであることを、子ども達には感じ取ってほしいと思っています。**